

読書の旅、羅針盤

昭和学院中学校高等学校図書館

おすすめ図書 100 冊

<高等学校>



図書館内吹き抜け部分

<リストの見方>

読んだらこの欄に
チェック(✓)しましょう

No.	表紙	「書名」 著者名(生没年) 出版社/叢書名[出版年]
		内容紹介
	教科	分類記号

1		「現代語訳 学問のすすめ」 福澤諭吉(1835-1901)、齋藤孝/訳 ちくま新書766[2009] 学問が必要であることの大きな理由を示し、人が心得ておくべき事柄を記す。歯切れのよい原書のリズムを生かした訳。	002
2		「インドで考えたこと」 堀田善衛(1918-1998) 岩波新書F31[1980] 鋭い時代感覚を持つ詩人・小説家である著者の思想旅行記。現代日本に対する文明批評の書でもある。	080
3		「海に沈んだ対馬丸」 早乙女愛(1972-) 岩波ジュニア新書599[2008] アメリカの潜水艦に撃沈された学童疎開船・対馬丸。犠牲となった1400名超の子どもたちの記録をたどる。	080
4		「零の発見—数学の生いたち—」 吉田洋一(1898-1989) 岩波新書R13[1979] 数学と計算法の発達の跡をきわめてやさしく説明した数の世界の入門書。著者は数学教育に多大な足跡を残した。	080
5		「ルポ 貧困大国アメリカ」 堤未果 岩波新書1112[2008] 9・11同時多発テロに遭遇した活躍中のジャーナリスト。富裕層と貧困層の二極分化の進むアメリカの現状を報告。	080
6		「読書からはじまる」 長田弘(1939-) 日本放送出版協会[2001] 人は読書する生き物である。読書の未来を見つめる詩人・長田弘が語る。読書とは何か？言葉の持つ力とは？	019
7		「臨床の知とは何か」 中村雄二郎(1925-) 岩波新書203[1992] 人間の知のあり方に新たな展望を開き、脳死や臓器移植などの医学的臨床の問題に対しても明快な視点を提供する。	104
8		「じぶん・この不思議な存在」 鷲田清一(1949-) 講談社現代新書1315[1996] じぶんとは何か、じぶんの中を探すが、それはじぶんらしさと言えるのか？他者との関係の中にじぶんの姿を探る。	104
9		「論語物語」 下村湖人(1884-1955) 講談社学術文庫493[1981] 湖人は生涯をかけて「論語」に学んだ。「論語」の章句を使って「論語」で養われた自分の思想を物語に構成したもの。	123
10		「超訳 ニーチェの言葉」 フリードリヒ・ニーチェ、白取春彦/編訳 ディスカヴァー・トゥエンティワン[2010] ニヒリズムや反宗教的思想で世界に影響を与えたドイツの哲学者ニーチェ(1844-1900)が残した心に響く232の言葉。	134
11		「武士道」 新渡戸稲造(1862-1933)、 矢内原忠雄/訳、岩波文庫[2003] 武士道の淵源・特質、民衆への感化を考察し、武士道がいかんにして日本の精神的土壌に開花結実したかを解き明かす。	156
12		「12の贈り物」 シャーリーン・コスタンゾ、黒井健/訳・絵 ポプラ社[2003] 誕生の瞬間に誰もが平等に授かっている贈り物についてやさしく語りかける本。12のキーワードを通して心を見つめる。	159
13		「ギリシア神話」 アポロドーロス、高津春繁/訳 岩波文庫[2003] アポロドーロスの伝える神話伝説は純粋に古いギリシアの著述を典拠とした、いわば、ギリシア神話の原典といべきもの。	164
14		「奇跡の人 ヘレン・ケラー自伝」 ヘレン・ケラー(1880-1968)、 小倉慶郎/訳、新潮文庫[2004] ヘレンが自ら書いた回顧録。外側から書かれた伝記ではわからない内側からのリアルな心情が伝わってくる。	289

15		「旅人 ある物理学者の回想」 湯川秀樹(1907-1981) 角川ソフィア文庫[2011] 1949年に日本人としてはじめてノーベル物理学賞を受賞した湯川博士が、自らの半生を振り返る。	国語	289
16		「ココ・シャネルという生き方」 山口路子 新人物往来社・新人物文庫[2009] 孤児院から人生を始め、自力で莫大な富と名声を手にした世界的ファッションデザイナーの波乱万丈な伝記。	家庭	289
17		「アップルを創った怪物」 スティーブ・ウォズニアク(1950-) 井口耕二/訳、ダイヤモンド社[2008] スティーブ・ジョブズとともにアップルを創業した「もう一人のステイブ」。生粋のエンジニアである著者による自伝。	情報	289
18		「そして、奇跡は起こった！」 ジェニファー・アームストロング、 灰島かり/訳、評論社[2000] 南極大陸横断には失敗するものの全員生還を果たしたシャクルトン(1874-1922)隊の奇跡の物語。		290
19		「インパラの朝」 中村安希(1979-) 集英社[2010] ヒマラヤ、東南アジア、インド、アフリカなど47カ国2年にわたる旅を、絶妙な距離感をもった清新な方法で描く。		292
20		「ぼくが見てきた戦争と平和」 長倉洋海(1952-) バジリコ[2007] 世界の紛争地をめぐる、そこに生きる人々を撮り続けているフォトジャーナリスト・長倉氏が生きることは何かを語る。		319
21		「ここが家だ」 ベン・シャーン アーサー・ピナード(1967-)、ベン・シャーン(1898-1969)/絵、集英社[2006] 第五福竜丸の悲劇を忘れてはならない。ベン・シャーンの絵と、アーサー・ピナードの力強い言葉が反原水爆を訴える。		319
22		「いかそう日本国憲法」 奥平康弘(1929-) 岩波ジュニア新書235[1994] 平和主義国家として世界貢献する道を選ぶのか、それとも…。第九条を中心に、憲法をいかしていく方法を探る。	社会	323

23		「ケータイを持ったサル」 正高信男(1954-) 中公新書1712[2003] 現代日本人の人間らしさは崩壊し、サルに退化したのか？気鋭のサル学者による家族論・コミュニケーション論。	社会	367
24		「科学と科学者のはなし」 寺田寅彦エッセイ集 池内了/編 岩波書店[2000] 日常生活の身近なことから細やかに観察しながら、科学的に考えることのおもしろさを綴った物理学者による随筆。		404
25		「科学の考え方・学び方」 池内了(1944-) 岩波ジュニア新書272[1996] 科学的に考えるとはどういうことか？第一線で活躍中の宇宙物理学者が、理科を学ぶ意義を若い人たちに語る。	理科	404
26		「数学物語」 矢野健太郎(1912-1993) 角川ソフィア文庫[2008] エジプト・バビロニアでの数学の誕生から数学の発展のドラマをやさしく解説。数学の楽しさを伝えるロングセラー。	数学	410
27		「数学力は国語力」 齋藤孝(1960-) 集英社[2010] 論理思考を支えるのは、実は国語力である。日常での数学的思考の活用方法を、豊富な実例をもとに解説する。		410
28		「アインシュタインが考えたこと」 佐藤文隆(1938-) 岩波ジュニア新書31[1981] 光の速さで走りながら光を見たらどう見えるのだろうか、アインシュタイン(1879-1955)は考え、相対性理論を発表した。	理科	421
29		「星界の報告」 ガリレオ・ガリレイ(1564-1642)、 山田慶児・谷泰/訳、岩波文庫[1978] 1610年冬、ガリレオが自らの手で完成させた望遠鏡を通して、30倍に拡大された星界と初めて対面した記録。	理科	440
30		「ホーキング、宇宙と人間を語る」 スティーヴン・ホーキング(1942-)、レナード・ムロディノウ、佐藤勝彦/訳、エクスマレッジ[2011] なぜ宇宙は存在しているのか？私たちが宇宙を支配する究極の理論とは何か？最新のアプローチにより提示する。		443

31		「ゾウの時間」 ネズミの時間 本川達雄(1948-) 中公新書1087[1992] サイズからの発想によって動物のデザインを発見し、その論理を理解する新しいタイプの生物学入門書。		481
32		「安全と安心の科学」 村上陽一郎(1936-) 集英社新書0278[2005] 安全の名のもとに人間が作り上げたものが、社会の複雑化にともない人々の安全を脅かすという矛盾を解決する提言。	国語	509
33		「沈黙の春」 レイチェル・カーソン(1907-1964)、 青樹繁一/訳、新潮文庫[2004] 自然破壊、生命の危機を40年前にいち早く指摘した名著。広い知識と洞察力に裏付けられた警告は今も衝撃的である。	理科	519
34		「あなたが世界を変える日」 セヴァン・カリス＝スズキ(1979-)、 ナマケモノ倶楽部/編・訳、学陽書房[2003] 1992年6月11日、国連の地球環境サミットでカナダ人の12歳の少女がスピーチし人々の強い感動を呼んだ。英文併記。		519
35		「木に学べ」 西岡常一(1908-1995) 小学館文庫[2003] 富大工棟梁として、木の心について、職人の技術について、法隆寺・薬師寺の魅力について語った入魂の哲学。		521
36		「この国の食を守りたい」 辰巳芳子(1924-) 筑摩書房[2009] 料理研究者である著者が、これまでの経験をもとに、食をめぐる諸問題を取り上げ、安全を守る力となるよう訴える。	家庭	596
37		「里山だより」 今森光彦(1954-)/文・写真 毎日新聞社[2011] 人々の暮らしに寄り添う身近な自然の風景をあたためたまござしでとらえた美しい写真と心あたたまる文章で綴る。		653
38		「僕の留学時代」 東山魁夷(1908-1999) 日本経済新聞社[1998] 市川市名誉市民の日本画家である著者の若き日のドイツ留学記。初公開のスケッチ等も多数収録。		721

39		「中・高校生のための現代美術入門」 本江邦夫(1948-) 平凡社ライブラリー487[2003] 20世紀に誕生した抽象画、カンディンスキー・モンドリアン・現代アメリカの画家の作品を取り上げ、やさしく解説する。	美術	723
40		「怖い絵」 (全3巻) 中野京子 朝日出版社[2007-2009] 16～20世紀の西洋名画を新たな視点から解説。恐怖とは無縁と思われた作品が思いもよらない怖さをしのばせている。	美術	723
41		「Alaska 風のような物語」 星野道夫(1952-1996)/写真・文 小学館[2010] 市川市出身の写真家・星野道夫が「自然と人間の関わり」をテーマにアラスカでの旅の思い出を写真と文章で綴る。		748
42		「バッハの思い出」 アンナ・マグダレーナ・バッハ(1701-1760)、 山下肇/訳、講談社学術文庫1297[1997] 大音楽家バッハの妻の目から見た人間味あふれる生き様が記されている。世界中の多くの読者に愛された名著。		762
43		「スラムダンク勝利学」 辻秀一(1961-) 集英社[2000] スポーツ心理ドクターが、漫画「スラムダンク」をテキストに、「勝つための心理学」を講義する。	体育	780
44		「スポーツを楽しむための基礎知識」 藪根敏和ほか 不味堂出版[2005] スポーツを楽しむために必要な知識を、写真図版を多用して解説。スポーツに対する興味を深めてくれる本。	体育	780
45		「外国語上達法」 千野栄一(1932-2002) 岩波新書(黄版329)[1986] 辞書・学習書の選び方、発音・語彙・会話の身につけ方、文法の面白さなど、英語習得のコツを教えてください。	英語	807
46		「相手に伝わる話し方」 池上彰(1950-) 講談社現代新書1620[2002] 自分の言葉で語りかけなければ、聞き手の心には届かない。著者が放送の現場で得た、相手に伝えるための話し方。		809

47		「部首のはなし」 阿辻哲次(1951-) 中公新書1755[2009] 部首という切り口から漢字を分析。50の部首ごとにその成立をたどる楽しい漢字エッセイ。2巻も出ている。
821		
48		「英語で読み解く賢治の世界」 ロジャー・パルバース(1944-) 岩波ジュニア新書598[2008] 宮沢賢治(1896-1933)の詩集を英訳した著者が賢治の世界を英語のキーワードで案内する。楽しく英語を学べる。
英語	830	
49		「物語の役割」 小川洋子(1962-) ちくまプリマー新書053[2007] 人は生きていくために物語を必要としている。そして、必要な物語を訪れている。生きることを見つめなおす一冊。
901		
50		「智恵子抄」 高村光太郎(1883-1956) 新潮文庫[2003] 彫刻家・詩人の高村光太郎の妻・智恵子(1886-1938)は心を病む。死後、妻への変わらぬ愛を綴ったレクイエム。
911		
51		「小さき花」 加島祥造、金澤翔子/書 小学館[2010] 加島祥造(1923-)の詩と、詩からインスピレーションを受けて自由に書いたダウン症の書家・金澤翔子(1985-)の書。
911		
52		「ありがとう私のいのち」 星野富弘(1946-) 学研パブリッシング[2011] 「あきらめない心」「ありがとう私のいのち」「おかあさん」の3つのテーマで詩画の傑作を足跡とともに紹介。
911		
53		「荷揚げ」 岡崎ひでたか(1929-) 新日本出版社[2007] 信州、千石街道・塩の道を舞台に貧しい農民たちが世直しを求めた民衆一揆「赤糞騒動」を描く力強い作品。
913		
54		「こころ」 夏目漱石(1867-1916) 新潮文庫[2004] 鎌倉の海岸で出会った不思議な魅力を持つ「先生」。彼はかつて親友を裏切り恋人を得たが、親友は自殺したという・・・
913		

55		「友情」 武者小路実篤(1885-1976) 新潮文庫[2003] 新人脚本家の野島が恋におちた女性は、親友もまた思いを持っていた。三角関係の中で、友情と恋愛を描く。
913		
56		「塩狩峠」 三浦綾子(1922-1999) 新潮文庫[2005] 北海道の塩狩峠で自分の命を犠牲にして暴走列車を止めた青年を通して人間の存在意義を問う、実話をもとにした作品。
913		
57		「沈黙」 遠藤周作(1923-1996) 新潮文庫[2003] キリシタン弾圧の時代、ポルトガル司祭の波乱に満ちた生涯。自分にとって大切なことは何かを問いかける。
913		
58		「サクリファイス」 近藤史恵(1969-) 新潮社[2007] 自転車ロードレースの世界を描く。レースでの悲劇に隠された真実とは？ミステリ仕立てで心の奥底にせまる感動作。
913		
59		「獣の奏者」全4巻+外伝 上橋菜穂子(1962-) 講談社[2006-2010] 読み応えのある長編ハイファンタジー。王獣の医師となるエリンは、王国の争いに巻き込まれていく。
913		
60		「にごりえ・たけくらべ」 樋口一葉(1872-1896) 新潮文庫[2003] 寺の息子・信如に思いを寄せる廓の町に住む美登利のせつない初恋を情趣あふれる文章で綴る。
913		
61		「檸檬」 梶井基次郎(1901-1932) 新潮文庫[2003] 肺を病み、憂鬱な心を抱え夭折した著者独特の世界観と幻想的な美しさが響きあう名短編20作品を収録。
913		
62		「古都」 川端康成(1899-1972) 新潮文庫[2010] 宿命により離れ離れに育った双子の運命は？美しい日本語で紡ぎだされる古き良き京都の町と双子の心情を描く。
913		

63		「白赤だすき小○の旗風」 後藤竜二(1943-2010) 新日本出版社[2008] 幕末の南部藩と仙台藩が力を合わせ大勝利した百姓一揆。民衆の力強さをダイナミックに描いた作品。
913		
64		「三国志」(全5巻) 吉川英治(1892-1962) 講談社文庫[2008] 2世紀末の中国、政治は腐敗し賊がはびこり、民衆は苦しんでいた。青年劉備は、関羽・張飛とともに立ちあがる。
913		
65		「吉里吉里人」(全3巻) 井上ひさし(1934-2010) 新潮文庫[1985] 東北のある村が吉里吉里国として、日本から独立宣言した！国家とは何か、どうあるべきかを問うユーモアたっぷりの物語。
913	社会	
66		「博士の愛した数式」 小川洋子(1962-) 新潮社[2003] 記憶力を失った天才数学者と、家政婦とその息子の交流を描いた作品。数式の持つ楽しさを教えてくれる。
913	数学	
67		「宇宙のあいさつ」 星新一(1926-1997) 理論社[2005] 「ちょっと長めのショートショート」全10巻、「ショートショートセレクション」全15巻所収。星新一の魅力たっぷりの傑作集。
913		
68		「竜馬がゆく」(全8巻) 司馬遼太郎(1923-1996) 文春文庫[1998] 開国へ向かう幕末、激動の時代。坂本竜馬(1836-1867)とはどんな人物だったのかを読み物で楽しめる作品。
913	社会	
69		「山椒大夫・高瀬舟」 森鷗外(1862-1922) 新潮文庫[2006] 犠牲の意味を問う「山椒大夫」、安楽死問題を見つめた「高瀬舟」など、鷗外の世界観がうかがえる12編を収録。
913		
70		「黒い雨」 井伏鱒二(1898-1993) 新潮文庫[2003] 一瞬の閃光とともに焦土と化したヒロシマ。被爆日記をもとに描かれた家族の悲劇。世界初の原爆文学の名作。
913		

71		「人間失格」 太宰治(1909-1948) 新潮文庫[2006] 太宰の自伝であり遺書であるといわれる作品。睡眠薬中毒者の手記をかり、自己の生涯を壮絶な作品に昇華させた。
913		
72		「額田女王」 井上靖(1907-1991) 新潮文庫[2010] 大化の改新、白村江の敗北、近江遷都へと続く歴史の事件の中に生きる額田女王。激動の時代を描いた傑作。
913	国語	
73		「蟹工船・党生活者」 小林多喜二(1903-1933) 新潮文庫[2003] 蟹を取り、缶詰作業も行う蟹工船では貧困層の人々が過酷な労働に従事していた。プロレタリア文学の代表作。
913		
74		「壬生義士伝」(上・下) 浅田次郎(1951-) 文春文庫[2002] 鳥羽伏見の戦い後、満身創痍の侍が藩の蔵屋敷にたどりついたが・・・新選組でただ一人「義」を貫いた侍の生涯。
913	国語	
75		「三四郎」 夏目漱石(1867-1916) 新潮文庫[2011] 熊本から東京の大学に入学した三四郎は都会育ちの美禰子に惹かれるが・・・。「それから」「門」へ続く三部作の序。
913		
76		「嘘つきアーニヤの真っ赤な真実」 米原万里(1950-2006) 角川文庫[2004] 1960年プラハで小4のマリは3人の少女と出会った。30年後激動の東欧で再会したマリが出会った真実とは？
914	国語	
77		「摘録 断腸亭日乗」(上・下) 永井荷風(1879-1959) 岩波文庫[1987] 38歳から79歳の死の直前まで書き続けた日記。晩年は市川で暮らしていた。断腸亭は荷風の別号。日乗は日記のこと。
915		
78		「夏から夏へ」 佐藤多佳子(1962-) 集英社[2009] 北京オリンピックをめざす男子400mリレーのチームを取材し、その熱き闘いの様子を描いたドキュメンタリー。
916		

79		「きけ わだつみのこえ」 日本戦没学生記念会/編 岩波文庫[1995] 戦後間もなくの1949年に刊行された戦没学生たちの手記。戦争を体験していない新しい世代へ向けて新たに出版。
80		「流れる星は生きている」 藤原てい(1918-) 偕成社文庫4008[1976] 昭和20年8月連参戦により、夫・新田次郎(1912-1980)と引き裂かれ、子供3人と満州から帰国するまでの苦難の記録。
81		「ロミオとジュリエット」 シェイクスピア(1564-1616)、中野好夫/訳 新潮文庫[2010] 仇敵同士の家に生まれたロミオとジュリエットは一目で恋におちるが、二人を待っていたものは…。悲劇の初恋を描く。
82		「トムは真夜中の庭で」 フィリパ・ピアス(1920-2006)、 高杉一郎/訳、岩波少年文庫041[2000] 真夜中に古時計が13回打ち、昼間はなかった庭園でヴィクトリア朝時代の少女と友達になるタイムファンタジー。
83		「時の旅人」 アリソン・アトリー(1884-1976)、 松野正子/訳、岩波少年文庫531[1998] 病気療養にきた母の田舎で、ふとしたことから16世紀に迷い込み、歴史上の大事件に巻き込まれるタイムファンタジー。
84		「ジーキル博士とハイド氏」 ステイーヴンソン(1850-1894)、 田中西二郎/訳、新潮文庫[1967] ホラーの古典的名作。人間の良い面と悪い面を分ける薬を発明した博士は次第にもの心の心が弱められていく。
85		「モーツァルトはおことわり」 マイケル・モーバーゴ(1943-)、マイケル・フォアマン/絵、さくまゆみこ/訳、岩崎書店[2010] 決してモーツァルトを演奏しないヴァイオリニスト。その理由はナチス強制収容所での悲劇にあった。知られざる真実を描く。
86		「若草物語」 オールcott(1832-1888)、松本恵子/訳 新潮文庫[1986] 南北戦争に従軍した父の留守を守る母を助ける4人の姉妹。「続若草物語」「第二若草物語」「第三若草物語」までである。

87		「クロニクル千古の闇」(全6巻) ミシェル・ペイヴァー(1960-)、酒井駒子/絵 さくまゆみこ/訳、評論社[2005-2010] 紀元前四千年の森で、悪霊に襲われた父との誓いを守り、精霊の山を探す旅に出る冒険ハイファンタジー。
88		「ライラの冒険」(全3巻) フィリップ・ブルマン(1946-)、 大久保寛/訳、新潮社[1999-2002] 12歳の少女ライラが誘拐された子どもたちを助けるため、黄金の羅針盤を持って北極へ向かうハイファンタジー。
89		「豚の死なない日」 ロバート・ニュートン・ベック(1928-)、 金原瑞人/訳、白水社[1999] 貧しい農場の少年を主人公に、自然とともに生きる人々の喜びと悲しみを描く。続編「続・豚の死なない日」あり。
90		「ゲド戦記」(全6巻) ル・グウィン(1929-)、清水真砂子/訳 岩波少年文庫588-593[2009] 魔法使いゲドとアースシーの光と闇を描く壮大なハイファンタジー。特に思春期を描いた第1巻は必読。
91		「指輪物語」(全7巻) J・R・R・トールキン(1892-1973) 瀬田貞二・田中明子/訳、評論社[1992] 恐ろしい闇の力を秘める秘密の指輪をめぐる、妖精族・ホビット族・魔法使いらの果てしない冒険ハイファンタジー。
92		「大地」(全4巻) パール・バック(1892-1973) 新居格/訳、中野好夫/補訳、新潮文庫[1996] 中国の19世紀～20世紀の親子孫三代の家族の歴史物語。この作品でバックは、ノーベル文学賞受賞。
93		「サウンド・オブ・ミュージック アメリカ編」 マリア・フォン・トラップ(1905-1987)、 谷口由美子/訳、文溪堂[1998] ヒトラーが支配する祖国オーストリアを離れトラップ一家はファミリー合唱団として自由の国アメリカへ渡る。本当の話。
94		「変身」 カフカ(1883-1924)、高橋義孝/訳 新潮文庫[2011] ある朝、気がかりな夢から目をさますと、自分が一匹の巨大な虫に変わっているのを発見する男。なぜこんな事態に？

95		「夜と霧」 フランクル(1905-1997)、池田香代子/訳 みすず書房[2002] ナチス強制収容所を体験した心理学者が、極限状態の中で「人間とは何か」を見つめた10代必読の書。
96		「第八森の子どもたち」 エルス・ペルフロム(1934-)、野坂悦子/訳 福音館文庫S-51[2007] 第二次世界大戦末期のオランダ。ドイツ軍に町を追われた少女の目を通して、戦争の冬を生き抜く人々の暮らしを描く。
97		「ソフィーの世界」(上・下) ヨースタイン・ゴルデル(1952)、池田香代子/訳 須田朗/監修、NHK出版[2011] 普通の14歳の少女ソフィーのもとへ「あなたは何だ？」と書かれた手紙が舞い込んだ。自分を見つめなおす哲学の本。

98		「カルメン」 メリメ(1803-1870)、杉捷夫/訳 岩波文庫[1960] 南国スペインを舞台に愛と情熱を代表する女性の物語。オペラ・ミュージカルとしても上演されている。
99		「チポ一家の人々」(全13巻) ロジェ・マルタン・デュ・ガール(1881-1958) 山内義雄/訳、白水Uブックス[1984] 第一次世界大戦の破局が予感される時代を舞台に、ブルジョワ社会の精神的風土と、思想の摩擦とを描いた大河小説。
100		「人生論」 トルストイ(1828-1910)、米川和夫/訳 角川文庫[2004] 「人生とは何か」「なぜ人は苦しむのか」…心の奥底から考え、トルストイが晩年にたどりついた人生観を語る。

(2012年5月作成)

おもしろかった本ベスト10

リスト No.	書名	著者名	出版社名
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			

1年	2年	3年	氏名
組	組	組	